

同窓生  
シリーズ

58



## 新宿高校の想い出



昭和41年4月真新しい詰め襟の制服・二本白線の制帽で、桜花満開の元、ほぼ今と同じところにあった旧新宿高校の歴史と伝統の重みを感じさせる正門を潜った。授業では、英語の尾造先生の時間に、毎回授業のはじめに前の授業の中から10問出される「豆テスト」と称するテストが実施された。確か4回目まで毎回のクラス平均点が10点満点の5点に満たず、5回目の授業の時に先生は涙を流されながら、「怠惰な天才は、努力をする凡才に勝ることはない」と諭され、その後は生徒の自覚により、平均点が大幅に上がったと記憶している。また、夏冬の各休みの英語の宿題は、指定された副読本を読み、休み明けに試験というも

21回生

西尾 洋  
にしお ひろし

◆プロフィール

東京工業大学卒業。現在石川島播磨重工業株式会社にて、ロケットの開発に従事。新宿高校では指名委員長として活躍。

のであった。学期中も副読本の試験が何回かあったと記憶している。このお陰で、英語については受験勉強をする必要もなく、さらに大学においてもほとんど予習・復習は不要であった。その他にも武井先生の世界史、豊澤先生の地学、石川先生の生物等が今でも強く印象に残っている。と書いてくると、あたかも勉強一筋の高校生活のように思われるかも知れないが、我々の学年は、ベビーブーム世代の1年後(昭和25年生まれ)であったため、1浪4年計画。中には5年計画で、高校・浪人生活を堪能して大学へ進学して行った者もいた。もちろん、私も「人並み」で大学へ進学した。当時のクラスで気の合った連中とは、今でも年に何回か飲み会やゴルフを楽しんだり、たまに仕事の相談に乗ってもらっ

たりしている。

クラブは中学校から引き続きバレー部に入部した。他の中学校のエアスタッカーやセッターが入部し、我々1年生だけでもチームを組むことが出来た。週日は早朝練習、休日は練習試合、冬場はマラソン、と先輩達に厳しく鍛えて頂いたお陰で、2年生夏休み明けの国体予選で都ベスト16、秋の新人戦で都ベスト24と、それなりに強いチームであった。卒業後は大学1年から約3年間コーチを担当した。バレー部は今でもOB・OG会活動が活発で、今年もコーチ達とOB・OG定期総会を開催し、卒業回数一桁台の大先輩から新卒までが一堂に会している。

新宿高校昭和43年度卒(21回生)として、卒業後早36年が経った。クラスメートとの繋がりが横糸とすれば、バレー部の先輩後輩の関係が縦糸となる。振り返ってみると、この横糸と縦糸が私の最も大きな財産の一つであり、その財産のお陰で今までやってこられたことを実感する。